

2025年大阪府交渉 続報

全国一高い国保料 府の姿勢に矛盾くつきり

協会は2025年11月26日に大阪府への交渉を実施した(12/15付既報)。今号では府下統一国保と子ども医療費助成をめぐる、大阪府の「公平性」論の問題点を中心に報道する。

保険料だけ高く サービスは後退



発言する戸井氏=2025年11月26日、大阪市内

大阪府の国保行政をめぐり、矢部あづさ副理事長は八尾市や東大阪市など、住民運動によって築かれてきた一部負担金減免制度が、2024年に府統一化の名の下に廃止された問題を指摘

した。戸井逸美副理事長は、所得200万円の4人家族で、年間45万6千円にもなる府の統一国保料の試算を示し、「医療アクセスの地域格差など、給付が不統一なのに全国一高い統一保険料だけが残り、制度とサービスは後退している」と強く批判した。

被保険者に責任を転嫁する発想だ」「収納率の低さも加入者のせいにするのはおかしい」と厳しく指摘、制度設計の不公平さを批判した。

「加入者のせい」批判

高い保険料の理由を問う協会に対し、府側は「収納率が低い」「所得水準が相対的に低い」などと回答。小澤力理事長は、「所得が低いから国保料が高いというのは、

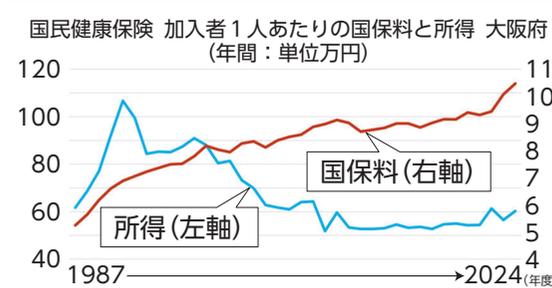


Table titled '都道府県の子ども医療費助成制度' comparing child medical cost support across Osaka Prefecture, Tokyo, and Okinawa. It details support for pre-school, up to age 18, and up to high school graduation.

子ども医療費 大都市圏も無償 子ども医療費助成で、高槻市が今年4月から窓口負担の完全無償化を実施した一方、大阪府は「1日500円、月2回まで」の自己負担を維持。斎賀史郎理事は「愛知県など大都市圏でも全

無償は可能で、自己負担ゼロだからと言って過剰受診は現場では起きていない。少子化対策としても無償化を進めるべきだ」と訴えた。府は制度見直しに消極的な姿勢を崩さなかった。

府独自の補助金は低水準 物価高騰対策として国が都道府県に交付している医療機関向け交付金について、富本昌之副理事長が、全国の補助金額の中央値(歯科診療所1件あたり6・8万円)と比べて大阪府(3万円)は低水準にとどまっております。府独自の補助金を増やすよう要請。さらに協

会は、府が繰り返してきた「医療機関数が多いたため1件当たりの補助金が少なくなる」という説明について、国が医療機関数を考慮して交付額を算定している制度の実態と合致していないと批判した。

は、社会保険料抑制のため医療給付削減を推進している。地方でも国でも「負担増と給付抑制」を進める維新政治の矛盾が、今回の交渉で一層鮮明になったといえる。子ども医療費助成では努力する基礎自治体によって

変化も生まれている。府の回答から、基礎自治体からも、府の高額国保料を問題視する声が寄せられていることも窺えた。協会は、引き続き、誰もが払える国保料、安心して受診できる医療制度の実現を求めていく。

予防歯科は妊婦歯科診療から

口腔機能発達不全症への対応も解説



滝川氏

滝川氏は1年800人出産する産婦人科を併設する歯科のスケールメリット②女性ホルモンの心身への影響と妊娠の口腔内変化③歯周病と不妊病との関連④歯科診療と禁煙支援のポイント⑤「ママイナス1歳」からの最も理想的な歯予防⑥乳幼児歯科健診で押さえてお

くポイントの赤ちゃんから口腔機能発達不全症に対応」が診療指針で、特に、妊婦の禁煙と「ママイナス1歳」からの定期健診の重要性を強調された。スライド動画では、妊婦の喫煙で胎児の心音が止まったり不規則音が聞こえる様子が見え、分かった。妊婦本人を含め、パートナーや周りの人も禁煙する重要性を強調していた。(箕面市・久保隆夫)

宝塚すみれ発電と西谷ソーラーシェアリング

地域循環共生圏ですすめる 行政と市民の取り組み

参加レポート



2025年10月23日、協会の共働団体である、原発ゼロの会・大阪の主催で自然エネルギー視察会があり、参加。「宝塚すみれ発電」と「西谷ソーラーシェアリング」を見学した。すみれ発電は、宝塚市内の市民が立ち上げた発電所である。

まず、NPO法人「新エネルギーをすすめる宝塚」が設立し、兵庫県・宝塚市の行政に働きかけ、生活協同組合コープこうべと事業者とが連携し、非営利型株式会社社宝塚すみれ発電となった。はじめは、「すみれ発電」と「西谷ソーラーシェアリング」をりあえずみんなどエネルギーを作る」を目標に、手作りの市民発電所作りがスタ



ートし、市民農園でのソーラーシェアリングができるようになる。市民発電所は地域の産業を増やすことにつながり、地域でお金を回す仕組みを作るため、行政の「補助金以外の支援策」は無いかも調べた。なら作ってもらうと補助金作りの提案にも取り組む。

再生可能エネルギーで町づくりに取り組んでいくと、関わる人が増え、市民・行政・学校・団体や企業など連携することになり、町の大きな活性化につながる。ソーラーシェアリングとは、農地にソーラーを設置して、農業と発電事業を両立させるというものだ。農業の推進にもなる。売電収入により安定した農業を続けることができる。再生可能エネルギーでの市民発電所づくりと同時に、ソーラーシェアリングを地域に普及させれば電気の地産地消も夢ではない。(八尾市・矢部あづさ)

冷えからくるトラブルに どう向き合う

一女医の会が講演会



二宮氏

女性医師・歯科医師の会は「寒い季節の女性医療」冷えから考える漢方アプローチ」を2025年11月29日に開催し、会場とWebで合計67人が参加した。講師の二宮典子氏は大阪市内で女性泌尿器科を標榜する一方、漢方医、医療系YouTubeといった多彩な肩書をお持ちである。今を解説した。講演後の懇親会では男性医師の参加も見られ、和やかに懇談した。協会では講習会での保育

回、冷えからくる女性特有のトラブルについて解説いただいた。東洋医学では体を構成する基本的な要素を「気」「血」「水」としており、二宮氏はその要素ごとにメカニズム、処方、養生に違いがあることを示した上で、患者の体質を見極めることが必要と強調。主訴ごとに具体的な対処法を解説した。

女性医師・歯科医師の会へ あなたも

女性医師・歯科医師の会は、年間通じ多彩なテーマで講演会を開催している。毎月の世話人会では医師として、女性としての様々な話題に花が咲き、会話の中からいろいろなヒントを得ることができる。会員であればどなたでも参加いただけるため、関心のある先生はぜひ一度足を運ばれたい。世話人一同

も、要望を受けて対応できる場合があるため、事務局まで一度問い合わせを。(世話人・中嶋信子)